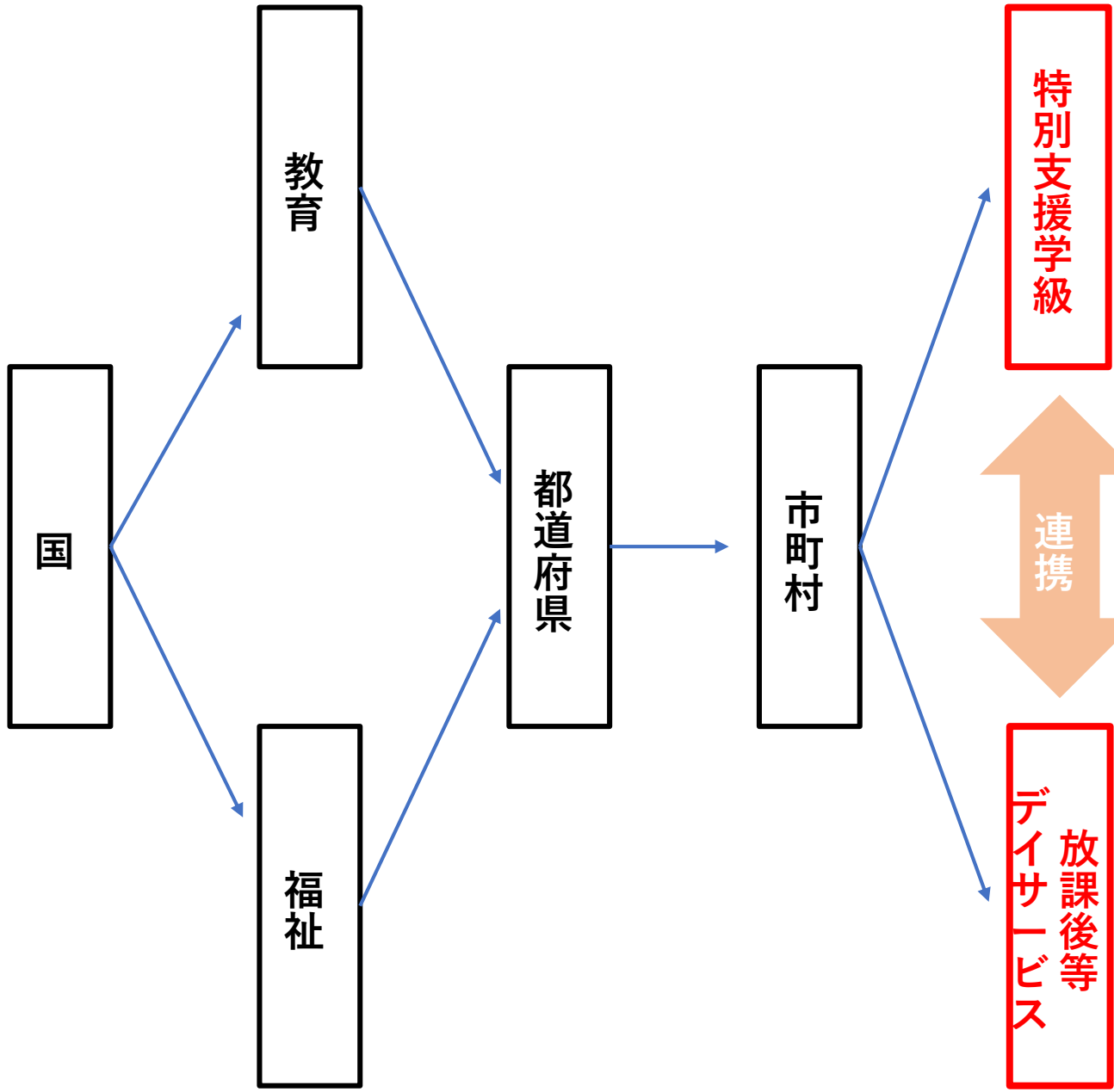


「発達障害支援の地域連携に係る全国合同会議」
2021.2

家庭－教育－福祉の連携 の実践について －ディスカッション用資料－

市川市立新浜小学校特別支援学級 学年主任 伊勢太惇
児童デイほっと 臨床心理士・公認心理師 外川大希



我々は「**児童の発達**」を支える現場同士での連携というカタチを取った。

特に「**児童の行動**」に焦点を当て、**応用行動分析学(ABA)**を活用した **“evidence based”**な教育・支援をテーマに展開している。

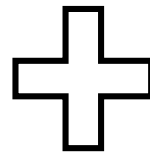
連携の中で浮き彫りになった課題に対して、**ITツール**を用いて切り込んだことも今回の連携の特徴の1つである。

連携の中で我々が展開した教育・支援

- ◇放課後等デイサービスで行ったアセスメントを教育現場でも展開した
- ◇**ABA**の視点に基づいて授業をデザインした
- ◇困った行動について**行動分析**を行い、より適応的に授業参加ができるよう働きかけた
- ◇**般化**を促すため、学校と放課後等デイサービスで**共通した標的行動**を持ったSSTの実施

療

- ・アセスメント
- ・行動分析
- ・コンサルテーション



育

- ・VRSST
- ・ICT教育
- ・集団生活指導



応用行動分析学（ABA）とは

行動に対しての結果がその人にとってより好ましいものであると、その行動を繰り返す可能性が高まる。この好ましい結果（褒める）を行うことでその行動を増加させることを「**強化**」と言う。



ソーシャルスキルトレーニング (SST) とは

人が社会で生活する上で必要なスキルを身につけるための訓練

①教示 ②モデリング ③リハーサル ④フィードバック ⑤般化



①教えてもらう
②見て学ぶ



③練習して・・・



④アドバイスをもらう



⑤自分でできる！

般化とは

獲得された適応行動（スキル）がSST実施場面以外の**様々な場面**（場所・人・状況）でも使用できるようになること

→学校と放課後等デイサービスの連携の大きな意義

学校でも・・・



家でも・・・



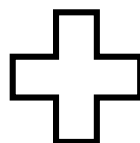
友達にも・・・



大人にも・・・



ABAの視点で行ったVRSST



正のフィードバック（強化）
授業の中で学んだ適応的な行動が増加
するよう働きかける

- ◇言語的な賞賛
- ◇視覚的な賞賛
- ◇感覚的な心地よさ

➡ **標的行動の般化**を促すため、教室内とVRでのSST （異なる場面での学習） + 正のフィードバック

根拠に基づいた評価①

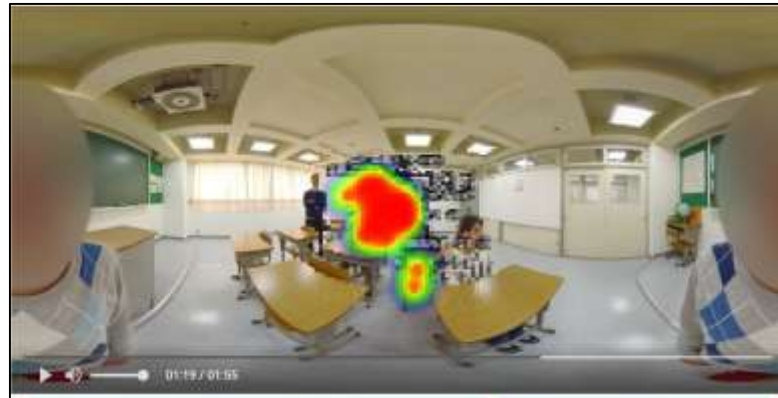
① ロールプレイ時の行動観察

かるがも学級 全体名簿 実見時間

氏名	1	2	3	4	5	6
山田 太郎	○	○	○	○	○	×
田中 花子	○	○	×	○	○	○
佐藤 健一	○	○	△	○	○	○
鈴木 美咲	○	○	×	○	○	×
高橋 誠二	○	○	○	○	○	○
渡辺 真由	○	○	○	○	○	○
小林 大輔	△	○	○	○	○	○
中村 由香	○	○	×	○	○	○
山本 拓也	○	△	○	○	○	○
水野 結衣	○	○	○	○	△	○
石川 悠斗	○	○	×	○	△	○
松本 莉子	○	○	×	×	○	○
伊藤 健太	○	○	○	△	○	○
山口 真由美	○	○	△	×	○	○
清水 悠太	○	○	○	○	○	○

一問者
体前
目標
応用
作の内
子内
しい
る分
滑

② 視線データの傾向分析



③ 選択肢から傾向を把握



療育と連携した評価
標的行動（距離感・目線・声の大きさ）を具体的に設定し、次回のSSTに活かす



根拠に基づいた評価②

④対象注視時間の測定と評価

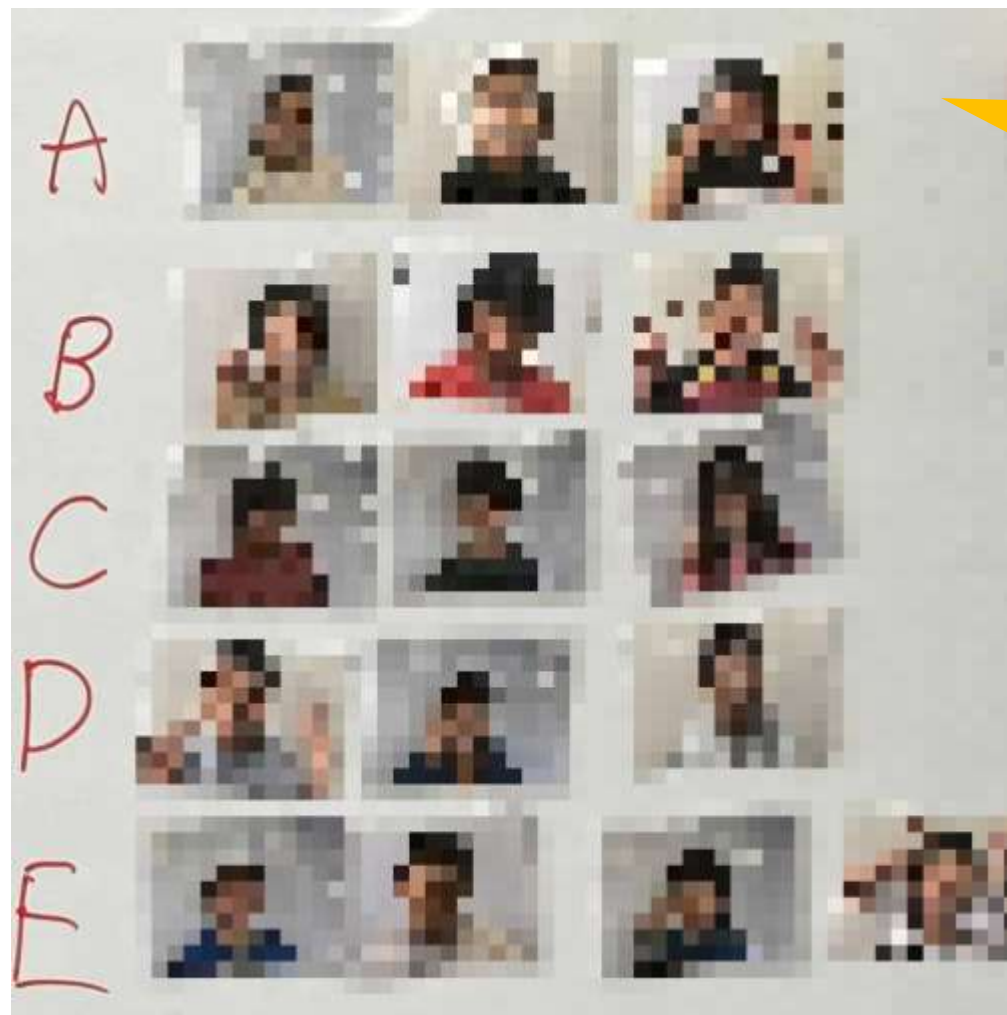
児童名	VR視聴前			VR視聴後			改善度	改善度の値における		
	話した時間	対象を注視した時間	注視した割合	話した時間	対象を注視した時間	注視した割合		平均値	中央値	
a	10.23	6.92	68%	11.77	5.88	50%	-14%	B	1%	4%
b	9.66	5.4	56%	9.71	7.23	74%	19%	B		
c	11.76	6.35	54%	22.28	15.51	70%	16%	B		
d	23.31	5.78	25%	40.28	6.25	16%	-9%	A		
e	8.76	5.06	58%	9.92	6.35	64%	6%	A		
f	9.45	7.66	81%	8.55	7.6	89%	8%	B		
g	12.22	8.62	71%	10.78	6.74	63%	-8%	B		
h	18.79	4.58	24%	20.64	6.11	30%	-5%	A		
i	11.79	3.86	33%	15.43	7.99	52%	19%	B		
j	14.47	11.18	77%	13.38	10.78	81%	3%	A		
k	10.45	9.86	94%	9.96	9.86	99%	5%	B		
l	14.41	6.59	46%	16.22	6.06	37%	-8%	A		
m	10.91	6	55%	11.87	6.21	52%	-3%	A		
n	11	7.27	66%	10.26	5.49	54%	-13%	A		



評価で行動の般化を測定
 標的行動の般化が促されているかを確認すると同時に、測定方法についても随時修正と変更を行った



根拠に基づいた評価から支援へ



根拠に基づいた支援

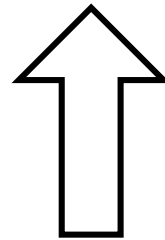
個別具体的に標的行動と定めると同時に複数人の支援者の言葉かけの統一を行う
正のフィードバックの強化に繋がる



我々の抱える課題

教育－福祉間連携のシステム化

個人要因の排除→行政への介入の必要性



教育現場と福祉現場の相互理解

放課後等デイサービス全体の
支援の質の向上

見立てや指導・支援計画の共有→標的行動の同定

市・地域全体での合同研修等の強化